

1 教育指導の充実グループ組織

	学習指導		生徒指導	
グループ主任	菅 藤 正 伸		名寄市立風連中学校	
副主任	里 村 徹	名寄西小学校	片 原 俊 光	名寄中学校
研究主任	馬 場 泰 栄		中名寄小学校	
副主任	裊 田 佳奈恵	名寄中学校	谷 柿 憲 治 裊 田 佳奈恵	智恵文中学校 名寄中学校
委 員	川 浦 直 也	名寄小	天 谷 亮 太	名寄中
	佐 藤 琢 磨	名寄南小	鎌 田 亮 祐	名寄東中
	清 野 泰 臣	名寄東小	森 礼 美	智恵文中
	山 岸 俊 樹	名寄西小	竹 本 秀 一	風連中
	寒 川 寛 之	風連中央小		

2 研究内容

- (1) タブレットを使用した提案授業を実施
- (2) プログラミングの実技研修を実施
- (3) ICT機器の効果的な活用の調査・研究
- (4) 生徒理解に係る各校の実践例の交流や関係機関との連携のあり方について研修
- (5) 特別な支援を必要とする児童生徒の指導の充実（調査と事例集の作成）
- (6) 困り感のある児童生徒に関する事例研修や情報交流

- | | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> (1) タブレットを使用した授業 <ul style="list-style-type: none"> ・風連中学校にてタブレット、大型提示装置等を活用した理科の授業の実際 (2) プログラミング授業について研修会 <ul style="list-style-type: none"> ・北海道立教育研究所研究研修主事を招いて名寄市地域連携研修講座の開催 ・風連中央小にて小学校プログラミング授業の実際 (3) 名寄市のICT機器活用調査及び情報活用能力育成に向けた資料作成 | <ol style="list-style-type: none"> (4) 実践例の交流に基づく関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・ケース別相談先一覧リーフレットの作成 (5) 特別な支援を必要とする児童生徒の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に係わる各校の実践交流と支援の取組のポイントを掲載した実践交流資料の作成 (6) 困り感のある児童生徒の事例研修 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導・補導協議会と連携した講演会の実施と研修 |
|--|--|

3 今年度の活動経過

年	月	日	主 な 内 容
31 元	4	25	□第1回教育改善プロジェクト委員会 ●第1回研究グループ会議 (今年度の研究内容・計画, 役割分担等について確認)
	5	22	□第2回教育改善プロジェクト委員会 ●第2回研究グループ会議
	5~6月		各学校で第1回Q-U実施
	7	9	指導案検討(授業者:風連中 森教諭) ケース別相談機関一覧検討交流
	8	29	タブレットPCを活用した授業交流
	11	6	名寄市児童生徒指導・補導協議会及び講演会
	11	8	小学校プログラミング教育研修講座(名寄市教委連携研修講座)
	11	28	風連中央小学校ICT(プログラミング授業:風連中央小 寒川教諭)授業交流
	9~11月		各学校で第2回Q-U実施
	12	10	□第3回教育改善プロジェクト委員会 ・各研究グループの研究の成果と課題 ・教育研究集会における発表内容の精査 ●第3回研究グループ会議(次年度の方向検討)
2	1	28	名寄市教育研究集会 EN-RAYホール

4 今年度の活動

(1) 小学校 中学校にて授業(ICT(タブレット)活用授業) 資料1

1) ICTを活用した授業の実際(風連中学校 風連中央小学校)

- 風連中学校ではICTを活用した理科の授業を実施した。大型テレビ, 教師用及び生徒用タブレットを活用し理科の実験で考える授業を展開することができた。
- 風連中央小学校では, 算数科の授業で「Scratch(スクラッチ)」を活用したプログラミング教育を実施することができた。(※(2)とも関連)

(2) プログラミング授業について研修会(※名寄市地域連携研修講座) 資料2

1) 市教委との連携による研修講座の実施

- 北海道立教育研究所で実施している市教委連携研修講座を行うことができた。講座と演習を通してプログラミング教育について理解を深めることができた。

(3) ICT機器活用調査及び情報活用能力育成に向けた資料作成 資料3

1) 授業におけるICT活用と小学校プログラミング教育実施に向けた考え方と年間指導計画ひな形の作成

- 小学校プログラミング教育の年間指導計画例, 授業の考え方及びあり方, ICT活用のあり方の資料等を作成し, 各校に配付することができた。

(4) 関係機関との連携についての研修

資料4

- 1) 児童生徒の相談ケースの実態交流及び相談機関の選定とリーフレットの作成
○各校が抱えている相談内容を出し合い、現状の悩みや相談ケースをまとめ、学校が相談できる窓口を一覧にしたリーフレットを作成し、各校に配付することができた。

(5) 生徒理解、困り感のある児童生徒・特別な支援を必要とする児童生徒に係わる実践交流と事例研修

資料5

- 1) 生徒理解、困り感のある児童生徒及び特別な支援を必要とする児童生徒について、名寄市教育研究所特別支援班と連携し、支援の取組のポイントをまとめ、相談ケースの実例を掲載した実践交流資料を作成し、各校に配付することができた。
- 2) 平成30年度版に続き、令和元年度版（改訂版）のQ-U活用リーフレットを作成し各校に配付することができた。

(6) 困り感のある児童生徒への支援についての講演会の実施と研修

資料6

- 1) 各校で抱えている生徒理解や支援の方法について、名寄市立大学社会保育学科の安永啓司教授に「困り感のある児童生徒への支援について」というご講演をいただいた。

5 成果と課題

【成果】

(1) ICT活用と小学校プログラミング教育

- ICTを活用した授業研究及び交流を小中で2回実施できた。その中において、小中学校の論理的思考力の育成に向けた接続のあり方について意識化を図ることができた。
- 小学校プログラミング教育の年間指導計画を、名寄市のスタンダードとして作成することができた。
- 交流授業や研修講座等を通して、ICTの活用のあり方及び小学校プログラミング教育について、その進め方と考え方の共通理解をすることができた。
- ICTは教師の授業における対話と思考活動のための有効なツールとなることが理解できた。

(2) 関係機関との連携についての研修

- 各相談機関に内容確認しケース別相談先一覧リーフレットを作成し、各校に配付して活用することができた。

(3) 生徒理解や困り感のある児童生徒・特別な支援を必要とする児童生徒に係わる指導の実践交流と事例研修

- 各校の生徒理解や支援の方法における悩みや課題を交流し、各校の実践や支援の取組のポイントを一覧（A3表裏1枚）にしてまとめることができた。

【課題】

(1) ICT活用と小学校プログラミング教育

- ▲各教科の論理的思考力の育成に向け、小中の連携強化を図る必要がある。
- ▲小学校プログラミング教育の年間指導計画を各校の実態に応じた編成を行う必要がある。

▲具体物や課題を大きく見せることに有効性はある。しかしタブレットなどのICTを児童生徒が使いこなすためには訓練の時間を要する。よって、ノートを撮影し投影するなどの工夫が最初には必要である。また児童生徒の学力にどう結びつけるかが課題となる。

▲ICTを対話的、思考ツールとしていくためには機器の操作の慣れが必要となるが、児童生徒の間にデジタルデバイド（情報格差）とならないよう環境整備を同時進行で進めることに課題がある。

(2) 関係機関との連携についての研修

▲学校からケース別に関係機関と連携するためのリーフレットは作成できた。今後、保護者向けの相談先一覧については、市教委や関係機関との間で検討する。

▲ケース別相談先一覧リーフレット、支援の取組ポイント一覧表については、具体的な活用等の研修を行った上で、各校に活用の手引きと一緒に配付し、より効果的な取組にする。

(3) 困り感のある児童生徒支援に係る講演会の実施と研修

▲名寄市生徒指導・補導協議会と協賛したが、講演会参加者を増やすために日時の設定などを工夫して、参加しやすい体制を作りたい。

▲名寄市生徒指導・補導協議会との協賛だけでなく、特別支援委員会や他の委員会とも共同で実施することで、さらに参加者の人数も増え、効果的な取組になると考える。